

歯科麻酔学

年次	学期	学則科目責任者
4年次	後学期	渋谷 鑛 (歯科麻酔学)

学修目標 (G I O) と単位数	<ul style="list-style-type: none"> ・単位数：3 ・学修目標 (G I O)： <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科治療中の患者管理を安全かつ快適に行うために、全身麻酔法、局所麻酔法及び精神鎮静法に必要な基礎知識 (生理学、薬理学、神経学及び解剖学) を習得する。 2. 歯科治療中の患者管理を安全かつ快適に行うために、全身麻酔学と偶発症発生時の対応について学ぶ。 3. 歯科治療中に発生した全身的偶発症に対応するために、救急処置に必要な知識と技術を習得する。 4. 歯科・虚空領域の痛み治療の基礎知識と東洋医学的治療法について学ぶ。
担当教員	渋谷 鑛、山口 秀紀、石橋 肇、卯田 昭夫、下坂 典立、鈴木 正敏、中村 真実、※米長 悦也、※大橋 一之、※吉村 宅弘、※金子 守男、※別部 智司、※橋本 崇文、※西連寺 央康、※草間 弘朝、峯村 麻由、荒巻 さやか、佐藤 俊秀、※岡 俊一
教科書	スタンダード全身管理・歯科麻酔学 第3版 小谷順一郎 編集 学建書院 臨床経穴図 木下晴都 医道の日本社
参考図書	シナリオで学ぶチュートリアル歯科麻酔 住友雅人、小谷順一郎、渋谷 鑛 編 医歯薬出版 臨床に役立つ麻酔読本 鈴木 太 監修 日本醫事新報社
実習器材	聴診器、ポケットマスク、静注用駆血帯 (枕付)
評価方法 (E V)	講義：授業時間内に行う平常試験 (100%) によって評価点とする。平常試験の結果に応じて、補講などの措置を講じることがある。 実習：小テスト (50%) 及び実習評価 (50%)。実習態度も実習評価に加味する。 講義・実習それぞれ1/5以上を欠席した場合、成績評価は0～60点とする。なお、講義について合格点 (60点) に達しない者に対し、再試験を行うが、講義を1/5以上欠席した場合、再試験の受験資格を与えない。また、講義・実習のいずれかが合格点に達しない場合、評価点は60点未満とする。 最終評価は、講義 (70%) 及び実習 (30%) の割合とする。
学生へのメッセージ オフィスアワー	麻酔は怖いもの、奇異なものというイメージを払拭し、安全なもの、扱いやすいものというイメージを持って欲しい。 口腔内への侵襲だけではなく、いつも全身への影響を考える意識を持つことを実習から学んで欲しい。 オフィスアワー：渋谷、山口、石橋、卯田、下坂、鈴木 月曜日16:00～17:30

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/09/12 (水) 3時限 13:10～14:40	麻酔 (科) 学概論	<p>【授業の一般目標】 麻酔学の理解を深めるために、麻酔の歴史の概略と歯科麻酔学の特徴を理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 麻酔学の発達と歴史上の史実・変遷について述べるができる。 2. 麻酔学の重要性和今日の歯科麻酔が担うべき役割を述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 1～P. 10を熟読すること (目安時間：20分)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 13 一般教養的事項 ア 医学史、歯科医学史</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	渋谷 鑛
2018/09/12 (水) 4時限 14:50～16:20	全身管理の基本 ・全身管理に必要な生理学	<p>【授業の一般目標】 麻酔学を理解するために、全身管理に必要な解剖学、生理学及び生化学の項目について理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 呼吸の基礎知識について説明できる。 2. 循環の基礎知識について説明できる。 3. 神経の基礎知識について説明できる。 4. 代謝・内分泌の基礎知識について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 11～P. 46を熟読すること (目安時間：60分)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p>	卯田 昭夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/09/12 (水) 4時限 14:50～16:20	全身管理の基本 ・全身管理に必要な生理学	なし 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 a 生体構成成分の構造・機能 【コアカリキュラム】	卯田 昭夫
2018/09/19 (水) 3時限 13:10～14:40	全身管理の基本 ・全身状態評価 ・管理上問題となる疾患の病態	【授業の一般目標】 歯科治療中の患者管理を安全に行うために、全身状態評価と管理上問題となる疾患について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1.術前診察について説明できる。 2.臨床検査について説明できる。 3.手術危険度について説明できる。 4.管理方法の選択について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.47～P.66を熟読すること (目安時間:40分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 検査 3 検体検査 ア 検体検査 a 一般臨床検査 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論V 診察 6 全身疾患を有する者への対応 オ 診察 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4)-(1) 全身管理 ⑥患者 (小児、妊産婦、高齢者を含む) の全身状態の評価を説明できる。	卯田 昭夫
2018/09/19 (水) 4時限 14:50～16:20	全身管理の基本 ・管理上問題となる疾患	【授業の一般目標】 歯科治療を安全に行うために、全身管理上問題となる疾患について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1.呼吸器疾患について説明できる。 2.循環器系疾患について説明できる。 3.脳・神経疾患について説明できる。 4.代謝・内分泌系疾患について説明できる。 5.肝疾患について説明できる。 6.腎疾患について説明できる。 7.妊婦について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.67～P.90を熟読すること (目安時間:60分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 検査 3 検体検査 ア 検体検査 a 一般臨床検査 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論V 診察 6 全身疾患を有する者への対応 オ 診察	卯田 昭夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/09/19 (水) 4時限 14:50～16:20	全身管理の基本 ・管理上問題となる疾患	<p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-1 診療の基本</p> <p>E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理</p> <p>E-1-4) - (1) 全身管理</p> <p>⑥患者（小児、妊産婦、高齢者を含む）の全身状態の評価を説明できる。</p>	卯田 昭夫
2018/09/26 (水) 3時限 13:10～14:40	局所麻酔法	<p>【授業の一般目標】</p> <p>安全に局所麻酔を施行するために、局所麻酔の歴史と局所麻酔薬の基礎的事項を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>1. 局所麻酔の歴史を述べるができる。</p> <p>2. 局所麻酔薬に関する神経生理学と薬剤の特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 207～P. 223を熟読すること （目安時間：20分）</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>なし</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>1 2 治療の基礎・基本手技</p> <p>カ 麻酔法</p> <p>a 局所麻酔</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>歯科医学総論</p> <p>総論Ⅶ 治療</p> <p>4 手術・周術期の 管理、麻酔</p> <p>ウ 麻酔</p> <p>a 局所麻酔</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-1 診療の基本</p> <p>E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理</p> <p>E-1-4) - (3) 局所麻酔法</p> <p>①局所麻酔の特徴と目的及び種類を説明できる。</p> <p>②局所麻酔薬の分類と、その作用機序を説明できる。</p> <p>③局所麻酔作用に影響を及ぼす因子を説明できる。</p>	石橋 肇
2018/09/26 (水) 4時限 14:50～16:20	局所麻酔法	<p>【授業の一般目標】</p> <p>安全に局所麻酔を施行するために、歯科用局所麻酔薬の特徴と血管収縮薬について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>1. 歯科用局所麻酔薬の特徴と使用上の注意点について説明できる。</p> <p>2. 血管収縮薬の薬理について説明できる。</p> <p>3. 局所麻酔の偶発症について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 224～P. 250を熟読すること （目安時間：50分）</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>なし</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>1 2 治療の基礎・基本手技</p> <p>カ 麻酔法</p> <p>a 局所麻酔</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>歯科医学総論</p> <p>総論Ⅶ 治療</p> <p>4 手術・周術期の 管理、麻酔</p> <p>ウ 麻酔</p> <p>a 局所麻酔</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-1 診療の基本</p> <p>E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理</p> <p>E-1-4) - (3) 局所麻酔法</p> <p>④血管収縮薬の使用目的と種類、特徴及び臨床使用上の注意を説明できる。</p> <p>⑤局所麻酔の実施法と合併症（偶発症）を説明できる。</p>	石橋 肇
2018/10/03 (水)	精神鎮静法	<p>【授業の一般目標】</p>	石橋 肇

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
3時限 13:10～14:40	精神鎮静法	<p>歯科治療中の患者管理を安全に行うために、精神鎮静法について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 精神鎮静法の適応症、選択及び管理方法について列挙できる。 2. 静脈内鎮静法及び吸入鎮静法の適応と使用薬剤及び管理方法を具体的に説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.195～P.201を熟読すること (目安時間：10分)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 カ 麻酔法 c 精神鎮静法</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ウ 麻酔 d 精神鎮静法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4)-(2) 精神鎮静法 ①精神鎮静法の特徴と目的及び種類を説明できる。 ②吸入鎮静法に使用する薬剤と適応、禁忌及び合併症を説明できる。 ③静脈内鎮静法に使用する薬剤と適応、禁忌及び合併症を説明できる。 ④精神鎮静法の周術期の管理を説明できる。</p>	石橋 肇
2018/10/03 (水) 4時限 14:50～16:20	精神鎮静法	<p>【授業の一般目標】 歯科治療中の患者管理を安全に行うために、精神鎮静法の実際について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 精神鎮静法の実際について述べるができる。 2. 精神鎮静法後の帰宅許可の基準について述べるができる。 3. 精神鎮静法後の患者への注意事項を述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.202～P.205を熟読すること (目安時間：10分)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 カ 麻酔法 c 精神鎮静法</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ウ 麻酔 d 精神鎮静法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4)-(2) 精神鎮静法 ④精神鎮静法の周術期の管理を説明できる。</p>	石橋 肇
2018/10/17 (水) 3時限 13:10～14:40	患者管理の実際 (その1) バイタルサインと モニタリングの実 際 ・10月29日から11 月19日の患者管理 の実際その1～4) は4班に分けてグ ループごとにロー テーションで行う。	<p>【授業の一般目標】 歯科治療を安全に行うために、バイタルサインについて理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 歯科外来の一般的医療面接項目を列挙できる。 2. 合併症を有する患者の対診時の実際について説明できる。 3. バイタルサインについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 1. 医療面接について説明できる。 2. バイタルサインを列挙し、概要を述べるができる。</p>	渋谷 鏡 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中村 真実 米長 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/10/17 (水) 3時限 13:10～14:40	患者管理の実際 (その1) バイタルサインと モニタリングの実際 ・10月29日から11 月19日の患者管理 の実際その1～4) は4班に分けてグ ループごとにロー テーションで行う。	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 9 診察の基本 エ 全身の診察 c バイタルサイン (呼吸、脈拍、血圧、体温) 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論V 診察 6 全身疾患を有する者への対応 オ 診察 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4) - (1) 全身管理 ①バイタルサインの意義とそのモニタリングの方法を説明できる。 ②血圧、脈拍数、呼吸数の測定方法と異常所見を説明できる。 ③体温の測定方法を説明できる。	橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀 岡 俊一
2018/10/17 (水) 4時限 14:50～16:20	患者管理の実際 (その1) バイタルサインと モニタリングの実際	【授業の一般目標】 歯科治療を安全に行うために、バイタルサインを理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. バイタルサインの的確な把握とその実際を行うことができる。 2. 血圧測定を行うことができる。緊急時の測定ができる。 3. モニタリングを実際に行うことができる。 4. 血糖測定を行い数値の解釈ができる。 5. 歯科麻酔学救急キットの器具の使用方法について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 バイタルサインを列挙し、説明ができる。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 9 診察の基本 エ 全身の診察 c バイタルサイン (呼吸、脈拍、血圧、体温) 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論V 診察 6 全身疾患を有する者への対応 オ 診察 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4) - (1) 全身管理 ①バイタルサインの意義とそのモニタリングの方法を説明できる。 ②血圧、脈拍数、呼吸数の測定方法と異常所見を説明できる。 ③体温の測定方法を説明できる。	渋谷 鐘 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中村 真実 米長 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀 岡 俊一
2018/10/24 (水) 3時限 13:10～14:40	患者管理の実際 (その2) 東洋医学的治療法 と針・灸の実技	【授業の一般目標】 歯科治療中の患者管理を安全に行うために、東洋医学について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 東洋医学療法 の概略を説明できる。 2. 東洋医学と西洋医学の違いについて説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「臨床経穴」序およびはしがきを熟読すること (目安時間: 5分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 その他 該当なし	渋谷 鐘 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中村 真実 米長 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀 岡 俊一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/10/24 (水) 3時限 13:10~14:40	患者管理の実際 (その2) 東洋医学的治療法 と針・灸の実技	【コアカリキュラム】	渋谷 鑛 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 立 鈴木 正敏 中村 真実 中米 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀 岡 俊一
2018/10/24 (水) 4時限 14:50~16:20	患者管理の実際 (その2) 東洋医学的治療法 と針・灸の実技	【授業の一般目標】 歯科治療中の患者管理を安全に行うために、東洋医学的治療法を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 歯科口腔領域に用いられる経穴・経絡を列挙できる。 2. 鍼灸治療の実際を説明できる。 3. 針の弾入、刺針、置針を含めた針の操作を行える。 4. 灸法について述べるができる。 5. 針麻酔 (和痛) の概念を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「臨床経穴図」序およびはしがきを熟読すること (目安時間: 5分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 その他 該当なし 【コアカリキュラム】	渋谷 鑛 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 立 鈴木 正敏 中村 真実 中米 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀 岡 俊一
2018/10/31 (水) 3時限 13:10~14:40	患者管理の実際 (その3) 救急処置 (1)	【授業の一般目標】 歯科治療中の患者急変に対応するために、心肺蘇生法を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 気道閉塞及び気道確保について説明できる。 2. 胸骨圧迫について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 287~P. 315を熟読すること (目安時間: 60分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 11 初期救急 イ 救急処置 a 一次救命処置<BLS> 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 3 救急医療 ア 一次救命処置 a 心肺蘇生 b AEDの使用 c 気道異物に対する対応 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-6) 救急処置 ②一次救命処置(basic life support <BLS>)を説明できる。	渋谷 鑛 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 立 鈴木 正敏 中村 真実 中米 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀 岡 俊一
2018/10/31 (水) 4時限 14:50~16:20	患者管理の実際 (その3) 救急処置 (1)	【授業の一般目標】 歯科治療中の患者急変に対応するために、心肺蘇生法を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 意識、呼吸及び脈拍の状態を把握できる。 2. 気道閉塞の解除及び気道確保を行える。 3. 呼気吹き込み式人工呼吸を行える。 4. 胸骨圧迫を行える。	渋谷 鑛 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 立 鈴木 正敏 中村 真実 中米 悦也

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/10/31 (水) 4時限 14:50~16:20	患者管理の実際 (その3) 救急処置 (1)	5. AEDを使用できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 後日配布する「救急蘇生法」プリントを熟読すること。(目安時間40分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (L S)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 11 初期救急 イ 救急処置 a 一次救命処置<BLS> 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 3 救急医療 ア 一次救命処置 a 心肺蘇生 b AEDの使用 c 気道異物に対する対応 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-6) 救急処置 ②一次救命処置(basic life support <BLS>)を説明できる。	大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀 岡 俊一
2018/11/07 (水) 3時限 13:10~14:40	患者管理の実際 (その4) 救急処置 (2)	【授業の一般目標】 歯科治療中の患者急変に対応するために、心肺蘇生法を行える。 【行動目標 (SBOs)】 1. 安全にAEDを使用できる。 2. 心肺蘇生法を手順通り行える。 【準備学修項目と準備学修時間】 後日配布する「救急蘇生法」プリントを熟読すること。(目安時間40分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (L S)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 11 初期救急 イ 救急処置 a 一次救命処置<BLS> 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 3 救急医療 ア 一次救命処置 a 心肺蘇生 b AEDの使用 c 気道異物に対する対応 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-6) 救急処置 ②一次救命処置(basic life support <BLS>)を説明できる。	渋谷 鐘 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中村 真実 米長 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀 岡 俊一
2018/11/07 (水) 4時限 14:50~16:20	患者管理の実際 (その4) 救急処置 (2)	【授業の一般目標】 歯科治療中の患者急変に対応するために、救急蘇生法を行える。 【行動目標 (SBOs)】 1. 傷病者発見から短時間で心肺蘇生法を開始できる。 2. 心肺蘇生法の手順をスムーズに実施できる。 3. AEDを安全に使用できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 後日配布する「救急蘇生法」プリントを熟読すること。(目安時間40分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (L S)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】	渋谷 鐘 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中村 真実 米長 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 佐藤 俊秀 岡 俊一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/11/07 (水) 4時限 14:50～16:20	患者管理の実際 (その4) 救急処置 (2)	必修の基本的事項 1 1 初期救急 イ 救急処置 a 一次救命処置<BLS> 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 3 救急医療 ア 一次救命処置 a 心肺蘇生 b AEDの使用 c 気道異物に対する対応 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-6) 救急処置 ②一次救命処置(basic life support <BLS>)を説明できる。	渋谷 鏡 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏 中米 真実 村長 悦也 大橋 一之 吉村 宅弘 金子 守男 橋本 崇文 西連 寺 央康 草間 弘朝 峯村 麻由 荒巻 さやか 藤 俊秀 岡 俊一
2018/11/14 (水) 3時限 13:10～14:40	平常試験1及び解 説講義	【授業の一般目標】 これまでの授業内容を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. これまでの授業内容について述べるができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの授業内容を復習する。(目安時間3時間) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 その他 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【コアカリキュラム】	渋谷 鏡 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立
2018/11/14 (水) 4時限 14:50～16:20	全身管理法 (ビデオ 供覧)	【授業の一般目標】 全身管理法を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 全身管理法について述べるができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 全身管理法について復習する。(目安時間60分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 その他 該当なし 【コアカリキュラム】	渋谷 鏡 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立 鈴木 正敏
2018/11/21 (水) 3時限 13:10～14:40	全身麻酔法 ・全身麻酔の概念 と方法 ・術前管理	【授業の一般目標】 安全に患者管理を行うために、全身麻酔法について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 全身麻酔法の適応と術前評価について説明できる。 2. 前投薬の使用法と薬理学的作用を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 91, P. 56～P. 58, P. 63～P. 66 を熟読すること (目安時間: 20分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 カ 麻酔法 b 全身麻酔 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の 管理、麻酔 ウ 麻酔	渋谷 鏡 山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/11/21 (水) 3時限 13:10～14:40	全身麻酔法 ・全身麻酔の概念 と方法 ・術前管理	b 全身麻酔法 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4) - (4) 全身麻酔法 ①全身麻酔の概念、種類並びに麻酔時の生体反応を説明できる。 ②全身麻酔時に使用する薬物とその基本的な薬理作用及び使用機器・器具を説明できる。 ③全身麻酔の適応と禁忌、合併症及び周術期の管理を説明できる。	渋谷 鏡 山口 秀紀
2018/11/21 (水) 4時限 14:50～16:20	全身麻酔法 ・吸入麻酔薬 ・静脈麻酔薬	【授業の一般目標】 安全に患者管理を行うために、全身麻酔法の種類を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 吸入麻酔薬及び静脈麻酔薬の薬理的性質について説明できる。 2. 吸入麻酔薬及び静脈麻酔薬の導入、維持及び覚醒について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 92～P. 125を熟読すること (目安時間：40分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 カ 麻酔法 b 全身麻酔 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ウ 麻酔 b 全身麻酔法 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4) - (4) 全身麻酔法 ①全身麻酔の概念、種類並びに麻酔時の生体反応を説明できる。 ②全身麻酔時に使用する薬物とその基本的な薬理作用及び使用機器・器具を説明できる。 ③全身麻酔の適応と禁忌、合併症及び周術期の管理を説明できる。	渋谷 鏡 山口 秀紀
2018/11/28 (水) 3時限 13:10～14:40	全身麻酔法 ・筋弛緩薬 ・気道管理 ・麻酔装置と麻酔 法 ・術中管理	【授業の一般目標】 安全に患者管理を行うために、全身麻酔を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 筋弛緩薬の生理・薬理的機序を説明できる。 2. 全身麻酔中の気道確保の意義と方法について説明できる。 3. 全身麻酔法に必要な器具・器材について説明できる。 4. 全身麻酔中の呼吸、循環及び代謝管理の方法と生理学的問題点について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 127～P. 134, P. 141～156を熟読すること (目安時間：40分) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 カ 麻酔法 b 全身麻酔 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ウ 麻酔 b 全身麻酔法 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4) - (4) 全身麻酔法	渋谷 鏡 山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/11/28 (水) 3時限 13:10～14:40	全身麻酔法 ・筋弛緩薬 ・気道管理 ・麻酔装置と麻酔法 ・術中管理	①全身麻酔の概念、種類並びに麻酔時の生体反応を説明できる。 ②全身麻酔時に使用する薬物とその基本的な薬理作用及び使用機器・器具を説明できる。 ③全身麻酔の適応と禁忌、合併症及び周術期の管理を説明できる。	渋谷 鏡 山口 秀紀
2018/11/28 (水) 4時限 14:50～16:20	全身麻酔法 ・気管麻酔 ・術後管理	<p>【授業の一般目標】 安全に患者管理を行うために、全身麻酔法について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 気管麻酔の実際について説明できる。 2. 術後管理の意義と目的を述べることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 157～P. 162を熟読すること （目安時間：20分）</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 カ 麻酔法 b 全身麻酔</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ウ 麻酔 b 全身麻酔法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4) - (4) 全身麻酔法 ①全身麻酔の概念、種類並びに麻酔時の生体反応を説明できる。 ②全身麻酔時に使用する薬物とその基本的な薬理作用及び使用機器・器具を説明できる。 ③全身麻酔の適応と禁忌、合併症及び周術期の管理を説明できる。</p>	渋谷 鏡 山口 秀紀
2018/12/05 (水) 3時限 13:10～14:40	小児の麻酔管理 障害者の麻酔管理	<p>【授業の一般目標】 安全に患者管理を行うために、小児と障害者の麻酔管理法を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 小児の全身麻酔管理の特徴について説明できる。 2. 障害者の麻酔管理の特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 171～P. 186を熟読すること （目安時間：30分）</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 カ 麻酔法 b 全身麻酔</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ウ 麻酔 b 全身麻酔法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4) - (4) 全身麻酔法 ①全身麻酔の概念、種類並びに麻酔時の生体反応を説明できる。 ②全身麻酔時に使用する薬物とその基本的な薬理作用及び使用機器・器具を説明できる。 ③全身麻酔の適応と禁忌、合併症及び周術期の管理を説明できる。</p>	山口 秀紀
2018/12/05 (水) 4時限 14:50～16:20	口腔外科手術と全身麻酔 歯科患者の日帰り	<p>【授業の一般目標】 安全に患者管理を行うために、口腔外科手術の全身麻酔と歯科患者の日帰り麻酔を理解する。</p>	山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
	麻酔	<p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>1. 歯科・口腔外科手術のための全身麻酔の特徴について説明できる。 2. 歯科・口腔外科手術の日帰り麻酔の特徴と留意点について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.163～P.170を熟読すること （目安時間：20分）</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 カ 麻酔法 b 全身麻酔</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ウ 麻酔 b 全身麻酔法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4) - (4) 全身麻酔法 ①全身麻酔の概念、種類並びに麻酔時の生体反応を説明できる。 ②全身麻酔時に使用する薬物とその基本的な薬理作用及び使用機器・器具を説明できる。 ③全身麻酔の適応と禁忌、合併症及び周術期の管理を説明できる。</p>	山口 秀紀
2018/12/12 (水) 3時限 13:10～14:40	高齢者の麻酔管理 訪問歯科診療における患者管理	<p>【授業の一般目標】 安全に患者管理を行うために、高齢者の麻酔管理と訪問歯科診療における患者管理を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>1. 高齢者の麻酔管理の特徴について説明できる。 2. 高齢者歯科患者の全身リスク評価について説明できる。 3. 訪問歯科診療における患者管理の特徴について説明できる。 4. 訪問歯科診療における感じリスク評価について述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.187～P.194を熟読すること （目安時間：20分）</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 ス 患者管理の基本 b 全身管理に留意すべき疾患・対象（皮膚・粘膜疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、血液・造血器・リンパ系疾患、泌尿器・生殖器疾患、精神疾患、神経疾患、内分泌疾患、免疫・アレルギー性疾患、感染症、小児疾患など）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 1 治療の基礎 ウ ライフステージ別の治療 c 高齢者の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4) - (1) 全身管理 ③体温の測定方法を説明できる。 ④意識状態の確認方法と異常所見を説明できる。 ⑤患者の服用薬物の歯科治療への影響と歯科治療時の対応を説明できる。 ⑥患者（小児、妊産婦、高齢者を含む）の全身状態の評価を説明できる。</p>	山口 秀紀
2018/12/12 (水) 4時限 14:50～16:20	全身疾患を有する患者の全身麻酔法	<p>【授業の一般目標】 安全に患者管理を行うために、全身疾患を有する患者の全身麻酔法について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>1. 全身疾患を有する患者への麻酔管理上の留意点について説明できる。</p>	山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/12/12 (水) 4時限 14:50～16:20	全身疾患を有する患者の全身麻酔法	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.67～P.90を熟読すること（目安時間：50分）</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 カ 麻酔法 b 全身麻酔</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4)-(4) 全身麻酔法 ①全身麻酔の概念、種類並びに麻酔時の生体反応を説明できる。 ②全身麻酔時に使用する薬物とその基本的な薬理作用及び使用機器・器具を説明できる。 ③全身麻酔の適応と禁忌、合併症及び周術期の管理を説明できる。</p>	山口 秀紀
2018/12/19 (水) 3時限 13:10～14:40	疼痛治療・管理方法 ・痛みの生理学 ・痛みの病態と治療	<p>【授業の一般目標】 疼痛治療を行うために、顎顔面の痛みを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 神経疾患の特徴と痛みのメカニズムについて説明できる。 2. 三叉神経痛、顔面神経障害の病態と治療方法について説明できる。 3. 非定型顔面痛の発生機序と治療方法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P.251～P.268を熟読すること（目安時間：30分）</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 5 緩和医療とターミナルケア イ 緩和ケア</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 神経疾患の病態・診断・治療 a 三叉神経痛 b 三叉神経麻痺 c 顔面神経麻痺 d 舌咽神経痛 e 舌下神経麻痺 f 非歯原性歯痛 g 外傷性神経障害 h 顔面けいれん i 帯状疱疹後神経痛 j 舌痛症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(9) 神経疾患 ①口腔顔面痛を説明できる。 ②三叉神経痛の原因、症状及び治療法を説明できる。 ③顔面神経麻痺の原因、症状及び治療法を説明できる。 ④三叉神経麻痺（感覚麻痺、運動麻痺）の原因、症状及び治療法を説明できる。</p>	渋谷 鏡 下坂 典立 別部 智司
2018/12/19 (水) 4時限 14:50～16:20	疼痛療法・管理方法 ・東洋医学的療法	<p>【授業の一般目標】 疼痛治療を行うために、東洋医学的療法を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 東洋医学的療法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 実習で行った東洋医学について復習する。（目安時間20分）</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】</p>	渋谷 鏡 下坂 典立 別部 智司

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/12/19 (水) 4時限 14:50～16:20	疼痛療法・管理方法 ・東洋医学的療法	<p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 5 緩和医療とターミナルケア イ 緩和ケア</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 神経疾患の病態・診断・治療 a 三神経痛 b 三神経麻痺 c 顔面神経麻痺 d 舌咽神経痛 e 舌下神経麻痺 f 非歯原性歯痛 g 外傷性神経障害 h 顔面けいれん i 帯状疱疹後神経痛 j 舌痛症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(9) 神経疾患 ①口腔顔面痛を説明できる。 ②三叉神経痛の原因、症状及び治療法を説明できる。 ③顔面神経麻痺の原因、症状及び治療法を説明できる。 ④三叉神経麻痺（感覚麻痺、運動麻痺）の原因、症状及び治療法を説明できる。</p>	渋谷 鏡 下坂 典立 別部 智司
2019/01/16 (水) 3時限 13:10～14:40	歯科治療時の全身的偶発症	<p>【授業の一般目標】 歯科治療を安全に行うために、歯科治療時の全身的偶発症を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 歯科治療中の全身的偶発症の成因、評価及び治療方法について述べるができる。 2. 各種ショックの分類、成因と病態及び使用薬剤について述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 1. 歯科治療中の全身的偶発症を列挙できる。 2. ショックを分類し、その項目を列挙できる。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 1 初期救急 ア 救急患者の診察 d 病態の評価と疾患（全身的偶発症を含む）の鑑別</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の 管理、麻酔 イ 周術期の管理 c 全身的併発症、合併症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-6) 救急処置 ①歯科治療時の全身的偶発症を説明できる。</p>	渋谷 鏡
2019/01/16 (水) 4時限 14:50～16:20	歯科領域の医療事故について	<p>【授業の一般目標】 歯科治療を安全に行うために、医療事故・過誤について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 麻酔・歯科麻酔関係の医療事故からその対応について述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 教科書「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」P. 269～P. 286, P. 316～P. 326を熟読すること（目安時間：20分）</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第1実習室</p>	渋谷 鏡

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/01/16 (水) 4時限 14:50～16:20	歯科領域の医療事故について	<p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 オ 医療事故の防止 a 医療事故と医療過誤</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 オ 医療事故の防止 b 医療事故の発生要因 c 患者の安全管理（誤飲、誤嚥、誤薬、出血、外傷、感染、被曝、目の保護） d 医療者の安全管理 e 医療危機管理〈リスクマネジメント〉 f ヒヤリハット、アクシデント、インシデント、医療事故報告書、インシデントレポート g 医療安全対策（医薬品・医療機器の安全管理） h 医療事故調査制度</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-6 医療の質と安全管理 A-6-1 安全性の確保 ①医療上の事故等の発生要因（ヒューマンエラー、システムエラー等）を説明できる。 ②医療上の事故等に対する防止策を説明できる。 ⑦歯科医療における事故の具体例を列挙できる。</p>	渋谷 鏡
2019/01/23 (水) 3時限 13:10～14:40	平常試験 2 及び解説講義	<p>【授業の一般目標】 これまでの授業内容を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. これまでの授業内容について述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの授業内容を復習する。（3時間）</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第1実習室</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	渋谷 鏡 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立
2019/01/23 (水) 4時限 14:50～16:20	平常試験 3 及び解説講義	<p>【授業の一般目標】 これまでの授業内容を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. これまでの授業内容について述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの授業内容を復習する。（目安時間3時間）</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第1実習室</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	渋谷 鏡 山口 秀紀 石橋 肇 卯田 昭夫 下坂 典立